

大学生は大人です

1年I科 柿原 弘樹

この題名を見てドキッした方はいませんか？ そう、今まさにこのページを開いたあなたです（高校生以下の方たちはこれからの人生を思いながら、社会人の方たちは昔を思い出しながら読んでいただければ幸いです）。

このテーマを選んだ経緯を少しだけ書きます。X680x0 同好会では夏休みに合宿を行いました。その時の個人の行動がいささか宜しくない状況（部のルールの不徹底など）だったので、先輩からお叱りの言葉がありました。その中に「大学生は大人です」という今回のタイトル通りの言葉がありました。

しみりしてしまうお話はおいといて、（もちろん合宿の反省はした上で、です）

「大学生は大人です」（以下、「この言葉」とします）という言葉にも色々な捉え方があるのではないかな、という思いつきで書いた記事です。

さて、「この言葉」にはどんな捉え方があり得るでしょうか？

Case.1 「大学生は、大人です （否定編）」

この状況を思い浮かべた人がほとんどでしょうか。

高等学校の卒業式が終わり、最後のホームルームでのこと。担任の先生が涙ぐみながら最後の教訓として話してくれたことでしょうか。また、大学の入学式か初めて受けた講義でのこと。大学の教職員の方が毎年使い続けたであろう歓迎の言葉の中で「この言葉」が使われたことでしょうか。

確かに「大人」という言葉の響きが、「責任」や「仕事」といった固く気難しい世界を連想させるかもしれません。

小学生の頃に「何だ。まだケツの青いガキじゃねえか。」なんて言われてむっとした覚えはありませんか？ その時は「早く大人になってそんなことを言った大人たちを見返してやる！」と決意した人も少なくないはずです。

さて、皆さんは、そんな早くなりたかったはずの大人になりつつあります。あなたは自分から「僕／私は大人だ。」と胸を張って言えるでしょうか？ 気持ちは子供のままではありませんか？ 一般的に大学生になれば、気持ちがどうであれ周囲からは大人として見られます。自分の行動にも責任をもたなくてはならないでしょう。

また、この Case で「この言葉」が使われた時は、素直に従った方が良いでしょう。「この言葉」を使った方は、既に堪忍袋の緒が切れかかっている場合が多いからです。使われないに越したことはありません。何事も穏便に済ませたいものです。

Case.2 「大学生は、大人です （肯定編）」

この状況も考えられなくはありません。

無事に大学に入学することができた A 君。入学する前から興味があったサークルに入り、今夜はそのサークルの歓迎会を兼ねた飲み会です。期待と緊張を隠せない新入生を傍らに、サークルの長である方から労いの言葉を掛けられました。「この言葉——」

やっと大学生になったんだから、お酒も煙草も競馬も OK だぜ、イエイ（古いかな）。もうこれか

らは合法的にヤンチャできるぜ。なんてノリから歯止めが利かなくなる Case です（正確には二十歳にならないとお酒も煙草も競馬もいけません また、大学生である限り勝馬投票券を買うことはできません お間違えの無いようにお願いします）。今では学生による一気飲みの強要が強く禁止されるようになりましたが、昔は一気飲みによる急性アルコール中毒で病院に搬送なんて大学生もいたそうです。サークルでの付き合いが大切なことは十分わかりますが、何よりも自分の命を大切にしましょう（説教じみた話になってしまいましたのでこの Case はこの辺でやめておきます）。

Case.3 「大学生は、『お』と『な』です」

小学生の時に、「火災で避難する時は『おかしも』が大切です」なんて習いませんでしたか？ この『おかしも』とは、『押さない』『かけない』『喋らない』『戻らない』の頭文字を取って合わせたものです。これと同様の発想でもう一度 Case.3 の題目を見てください。

大学生が研究すべきテーマは何でしょうか？ という質問を受けて「この言葉」を返す。その真意は「『オリゴ糖』と『納豆菌』を研究すべきです」でした、とかね。ごめんなさい。どうか頭がおかしいと思わないで……。

大学生が目指すべき姿はどのようなもののでしょうか？ という質問を受けて「この言葉」を返す。その真意は「『王』と『長嶋』のような良きライバルであることです」でした、とかね。安心してください。至って冷静です。

他にも「『OK 牧場』と『なんでだろう』」や「『おっとり』と『なまいき』」など可能性は無限に広がっています。あなたはどんな「『お』と『な』」を考えましたか？

Case.4 「大学生、ハオとナデス」

ここで文節の分け方が変わってしまいました。気にしないことにします。

ハオと聞いたら、某漫画のキャラクターを思い出したかもしれませんね。僕もその一人でした。しかし、ここでは一切関係ありません。ナデスはどこかのゲームで島の名前らしいです。しかし、これもまた一切関係ありません。あくまで架空のキャラクターを出現させたとしましょう。

留学生のハオ君とナデスちゃん（ちょっと無理がありすぎかな）が登場する小説がありました。その小説シリーズで 3 巻ぐらいの冒頭でのこと。もうそろそろ読者も彼ら（ハオとナデス）の性格や容姿をイメージできた頃だろうと思った作者はあえて留学生という説明を入れないで文章を書きました。その時の文章の出だしが「この言葉」でした。という感じでいかがでしょうか？

Case.5 「大学生、羽音、名です」

これは言わなくてもわかるでしょう。自己紹介です。「羽音」は名前です。「はおと」というと、他にも「刃音」「葉音」「歯音」などが考えられますが、僕の中で一番しっくりきたのが「羽音」でした。

そろそろネタ切れです（正確にはもう少し細分化できなくもないですが、あまりにも見苦しくなってしまうので打ち切りにしました）。お馬鹿なトンチもお開きにします。僕が何を言いたかったのかというと、一般的な常識・風潮だけに捕らわれていると、とんだミスを引き起こす場合があるので、相手の状況をよく見て柔軟に対応をしないといけないよね、ということです。皆様が双生児とソーセージを間違えるようなことが無いように祈っております。長文・駄文で失礼しました。